

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p>平成 24 年 月 日</p> <p>愛知県知事 殿</p> <p>提出者 住 所 愛知県小牧市東三丁目1番地 氏 名 東海ゴム工業株式会社 (社長 西村 義明) 小牧製作所長 田中 睦 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0568-77-3045 (環境管理部)</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	東海ゴム工業株式会社 小牧製作所
事業場の所在地	愛知県小牧市東三丁目1番地
計画期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	19：ゴム製品製造業（自動車用防振ゴム ホース 精密樹脂部品）
②事業の規模	102433百万円/年
③従業員数	2,935名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙—1— (1) 参照

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
<p>(管理体制図)</p> <p>社長 — CSR委員会 — 環境委員会 ————— 全社環境会議 (省資源廃棄物部会)</p> <pre> graph TD CSR[CSR委員会] --- Env[環境委員会] Env --- All[全社環境会議] Env --- Div[事業部長] Env --- Div2[製作所所長] Env --- Div3[関連会社社長] Div --- DivEnv[事業部環境委員会] Div2 --- DivEnv2[製作所環境委員会] Div3 --- DivEnv3[関連会社環境委員会] All --- EnvM[環境管理部] EnvM --- Res[産業廃棄物管理責任者] EnvM --- Sp[特別管理産業廃棄物管理責任者] EnvM --- Tri[TRIクリエイツ ESC] EnvM --- Note["(製作所内廃棄物処理業務)"] </pre>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度 (平成23年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油 (EG廃液・アルカリ廃液)
	排出量	1368 t /年	954 t /年 (アルカリ廃液526 t /年増)
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部署毎に前年実績の年3%削減を目標に削減テーマUPを行い削減活動実施。(不良ロス低減、歩留UP。) ・ 廃油 (EG廃液) の微生物による分解処理トライ実施。 しかし設備導入延期でEG廃液の排出抑制までいならず。 ・ アルカリ廃液による排出時の白濁現象が発生した。そのため白濁現象の原因解明が出来るまで全量産廃処理とした。排出抑制にいたらず、寧ろ排出量の増加となった。 		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油 (EG 廃液)
	排出量	1245 t	1100 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年同様、部署毎の今年度の削減目標とテーマUPを行い、不要廃棄物の削減活動継続実施。 ・ 中長期的に造り方改善テーマも見出し、ロス低減活動に結びつける。 ・ 廃油 (EG廃液) の微生物分解によるプラントの設置導入 ・ アルカリ廃液処理装置の導入により減量をはかる。 		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汚泥、廃油、廃プラスチック類、木くず、鉄くず類、非鉄くず類 蛍光灯類 等有価物も含め (60~70種類に) 分別 実施。 		
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の継続実施 		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成23年度）実績】 特になし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
②計画	【目標】 特になし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成23年度）実績】 特になし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
②計画	【目標】 特になし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項						
①現状	【前年度（平成23年度）実績】 特になし					
	産業廃棄物の種類					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		t		t	
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。					
②計画	【目標】 特認なし					
	産業廃棄物の種類					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t		t	
	(今後実施する予定の取組) ・実施する予定はない。					
産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	【前年度（平成23年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木屑	金属屑
	全処理委託量	155 t	1001 t	1368 t	182t	215 t
	優良認定処理業者への処理委託量	30 t	989 t	0 t	0t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	155 t	2332 t	1368 t	182t	215 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0t	0 t
(これまでに実施した取組) ・可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減をはかる						

②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	木屑	金属屑
	全処理委託量	150 t	1142 t	1245 t	175 t	161 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	30 t	1140 t	0 t	0	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	155 t	300 t	1245 t	175	161 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0	0 t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託量	0 t	0 t	0 t	0	0 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年同様、部署毎の今年度の削減目標とテーマUPを行い、不要廃棄物の削減活動継続実施。 ・中長期的に造り方改善テーマも見出し、ロス低減活動に結びつける。 ・廃油（EG廃液）の微生物分解によるプラントの設置導入検討 						
※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理の工程

NO	廃棄物名称	廃棄物 コード	平成23年度 廃棄物発生量 (ton/年)	平成24年度 減量当初計画 (ton/年)	委託処理	再資源化
1	汚泥(無機混合)	02	101	100	造粒固化	再生土資源化
2	汚泥(無機混合) (練りゴム添加剤)	02	0.003		焼却	—
3	汚泥(無機混合) (シリカ・防着剤)	02	24	20	混練	他材料と混練後燃料再資源化
4	汚泥(無機混合 アルカリスラッジ汚泥)	02	30	30	乾燥・焼却	—
汚泥 小計			155	150		
5	廃油(アルカリ・化成皮膜スラッジ・イソシアネート)	03	35	40	焼却・中和	—
6	廃油(アルカリ・化成皮膜スラッジ)	03	622	800	油水分離・中和	—
7	廃油(液状ゴム・イソシアネート)	03	1.5	1	焼却	—
8	廃油(油水)	03	4.8	0	油水分離	—
9	廃油(廃液)	03	4.1	0	焼却	—
10	廃油(封入液)	03	332	300	エマルジョン燃料化	再資源化
11	廃油(廃液)	03	0.006	0	焼却	—
12	廃油(廃液)	04	0.4	0	焼却	—
13	汚泥 (研究試薬廃液)	02	0.75	1	焼却	—
	汚泥 (研究試薬廃液)					—
	廃油 (研究試薬廃液)	03				—
	廃アルカリ (研究試薬廃液)	05				—
	廃アルカリ (研究試薬廃液)	05			中和	—
	廃酸 (研究試薬廃液)	04	0	0	焼却	—
廃油 小計			1,001	1,142		
14	廃プラ(塗料かす)	06	61	60	焼却	—
15	廃プラ(不燃・雑芥)	06	24	20	直接埋立	埋立処分
16	廃プラ(RPF材料)	06	51	50	圧縮・減容固化	RPF燃料 再資源化
17	廃プラ(RPF材料)	06	20	15	減容固化	RPF燃料 再資源化
18	廃プラ(複合材)	06	782	800	破碎・圧縮	RPF燃料 再資源化
19	廃プラ(RPF材料)	06	233	180	破碎・圧縮	RPF燃料 再資源化
20	廃プラ(ゴム粉)	06	92	0	破碎・圧縮	ゴム粉として再資源化
21	廃プラ(包装類)	06	74	85	破碎・減容固化	RPF燃料 再資源化
22	廃プラ(パソコン・事務机等)	06	6		↑	metal 再資源化
23	廃プラ(パソコン・事務机等)	06	7	15	↑	metal 再資源化
24	廃プラ(カーボン汚泥)	06	18	20	混練	他材料と混練後燃料再資源化
廃プラ 小計			1,368	1,245		
25	木屑(廃パレット・梱包材)	08	182	175	破碎	燃料再資源化
26	鉄屑(グリッド)	12	164	160	混練	プラと混練後電炉で鉄原料再資源化
27	金属くず(高圧ワイヤーホース)	12	50	0	破碎・圧縮	電炉で鉄原料再資源化
28	金属くず(乾電池)	12	0.4	0.5	焼却・ばい焼	metal 再資源化
29	金属くず(濾布)	12	0.39	0	溶融加熱分解	—
金属くず 小計			215	161		
30	蛍光灯	13	2	2	破碎	再資源化
31	ガラス・陶器類	13	0.025	1	破碎	再資源化
ガラスくず 小計			2	3		
産業廃棄物 計			2,922	2,876		